鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
石　下　亜衣紗
〒085-1205 鶴居村中雪裡南　☎64-2620／FAX64-2239

鶴居 タンチョウ　検索

２０２６夏　若者たちが鶴居村でワークキャンプ

８月３１日～９月４日にかけて、フィールドアシスタントネットワーク（Ｆ．Ａ．Ｎ.）の若者たちが鶴居村でタンチョウ保護の歴史と現状について学び、実際の保護活動を体験していきました。Ｆ．Ａ．Ｎ.とは国内の様々な大学の学生を中心とした若者たちが、「自然保護」という共通認識のもとに、「今、自分たちに何かできるのか、何をすべきなのか」と考え、行動していくグループです。鶴居村には毎年、夏と冬に訪れ、今回は７名の若者たちが、レンジャーと一緒に活動しました。

鶴居村に到着後、レンジャーがタンチョウと保護の歴史についてとサンクチュアリの取り組みについてをレクチャーし、基本的なことや、今回の活動意義について理解してもらい、３日間様々なことに取り組んでもらいました。野外セミナーでは、給餌場や音羽橋などを見ながら、タンチョウたちはどんな場所でどんな暮らしをしているのかを学び、また、農場では酪農家さんから、タンチョウがそばにいる暮らし・付き合い方についての話をお聞きしました。さらには、少し足を延ばして北斗や温根内に出かけ、釧路湿原の現状、給餌以外の保護の取り組み、近年発生している問題などを知ってもらいました。



冬期自然採食地の整備では、この半年で小川に発生した倒木を、タンチョウたちが川の中を行き来できるように除去し、さらに除去した倒木を使って、今まで設置してきた堰の補修や改良を行いました。また、センター周辺の環境整備として、特定外来種の防除作業にも奮闘しました。

あいにくの雨模様の日には、５日にブース出展を控えた「そらフェスｉｎ釧路空港２０２６」で来場者に挑戦してもらうクイズとヒントになる解説ボードを作成しました。

盛りだくさんな４日間を過ごしたあと、若者たちは振り返りと片付けをして鶴居村を後にしました。参加したみなさんの振り返りのコメントを一部紹介させていただきます。

・今回の経験で人とのコミュニケーションを学べました。社会人になってから仕事でしっかり活かせそうです。
・農業に携わる方のリアルな話を聞けてよかった。一度減ってしまった野鳥が増えてくれて嬉しいと思う一方、人との関わりは一筋縄ではいかなそうと感じた。
・北海道での暮らしの大変さや魅力を知りました。将来北海道で暮らすのもいいと感じました。
・タンチョウが常に身近にいて、人と共生している点が印象的でした。そして何よりも、皆さんのタンチョウ愛があるからこそ、こんなにも地域が一体となってタンチョウと自然を守り続けることができるんだなと思いました。

冬にもＦ．Ａ．Ｎ.の活動が予定されており、自然採食地の整備効果を確認する調査を実施予定です。村内でみかけましたら、ぜひ激励の言葉をかけてあげてください。